

「4つの新たな施策の具体化に向けた検討組織」 進捗状況

(令和4年11月25日現在)

岐阜県らしいリニア駅・周辺整備検討会について

1 設置目的

- ・岐阜県の東の玄関口として、個性的で高機能なリニア駅及び駅周辺となるよう、専門家等を交えて、本県としてのデザイン意見をとりまとめる。

2 検討事項

- ・リニア駅舎外観と自由通路、駅周辺整備についてのデザイン案

【第1回検討会：令和4年8月18日】

(主な意見)

- ・車両基地が整備されることを踏まえると、リニア岐阜県駅は災害時のバックアップ基地になる可能性があり、その点は強みと考えるべき。
- ・駅及び駅周辺の強靱性確保、それをブランディング化したうえで、企業誘致を図ると良いのではないか。
- ・駅からの乗換利便性が不十分であれば、リニアによる時間軸の短縮効果は半減する。
- ・近未来の技術革新を前提とした、駅周辺の機能面の検討をすべき。
- ・岐阜県らしい自然や文化を連想させる、駅舎及び駅周辺の整備が望ましい。

3 検討会委員

(敬称略)

	氏名	役職	分野
座長	涌井 史郎	東京都市大学環境学部特別教授	ランドスケープ
	内藤 廣	建築家、東京大学名誉教授	建築
	田中 一雄	(株)GKデザイン機構代表取締役社長	デザイン
	青山 節児	中津川市長	地元
	上手 繁雄	元岐阜県副知事	行政

オブザーバー：J R 東海

4 検討会スケジュール（予定）

- ・令和4年度 駅舎外観と自由通路、駅周辺整備デザインについての意見交換
- ・令和5年中 意見交換を踏まえたデザイン意見のとりまとめ

地域を担う人づくり検討会について

1 設置目的

- ・リニア総合車両基地などへの人材供給に向けた地元教育環境の充実と、まちづくりの課題解決に関わる人材育成のための効果的な支援について検討する。

2 検討事項

- ・地元教育環境の充実とまちづくりの課題解決に関わる人材育成に係る支援策

【第1回検討会：令和4年9月2日】

(主な意見)

- ・当面は、子ども達が魅力的で進学したいと思う地元の学校、将来的には、特色のある学校、**学びの場と働く場とのリンクの実現**が課題だと思う。
- ・これからは**AI、データサイエンス教育等が重要**で、工業高校であれば先取りが必要だが、その際には工学系大学院生の活用が可能である。
- ・**定員割れの専門高校に対する危機感が薄い**。リニア近傍の立地を活かし、**リニア関連企業等への人材供給に向けた改革案を提案**すべき。
- ・将来的には、**グローバル人材の育成も必要**だと思う。

3 検討会委員 (令和4年9月2日時点)

(敬称略)

	氏名	役職	分野
座長	杉本 潤	中津川商工会議所 会頭	地元
	早川 正人	中津川北商工会 会長	
	青山 節児	中津川市長	
	岩久 義和	中津川市教育委員会 教育長	
	平田 豊	中部大学工学部ロボット理工学科 教授	有識者
	上手 繁雄	元岐阜県副知事	
	商工労働部長、教育委員会副教育長、都市公園整備局長		県

4 検討会スケジュール (予定)

- ・令和4年度 地元教育環境の充実や人材育成に向けた意見交換
- ・令和5年度 意見交換を踏まえた課題・対策の整理

森のまちづくり構想実現WGについて

1 設置目的

- ・豊かな自然や伝統文化、ものづくりを中心とした多様な産業等を十分に活かしながら、クリエイティブな人材を呼び込み、イノベーションが生まれやすい地域づくりを推進する。

2 検討事項

- ・「森の中のスタートアップ拠点（仮称）」の具体化

【起業経験者等への個別ヒアリング：令和4年5月～7月 計17名】

（スタートアップ施設）

- ・官民挙げた支援施設（SHIBUYA QWS等）で、育成支援に注力。

（先進自治体）

- ・愛知県は、「STATION Ai」を整備し、スタートアップ企業の育成に注力。
- ・三重県は、地域課題の解決策をスタートアップ企業等から募集、連携に注力。

（起業経験者からの助言）

- ・地域の課題解決策を有するスタートアップ企業等の呼び込みが必要。
- ・起業家の家族（子ども）の教育環境の充実が必要。
- ・行政は金銭的な支援のみならず、地元協力者への橋渡しが必要。
- ・スタートアップ事業の推進に協力的なキーパーソンの確保が必要。

◎ヒアリング結果を踏まえた実践策について、WGにて検討。

3 WG委員（調整中）

関係者	起業経験者、金融機関、教育機関（中部大学、岐阜大学） リニア沿線市町
有識者	リニア活用戦略ブラッシュアップ懇談会委員
県	商工労働部、産業経済振興センター

4 WGスケジュール（予定）

- 令和4年度 「森の中のスタートアップ拠点（仮称）」具体化に向けた意見交換
令和5年度 意見交換を踏まえた課題・対策の整理

環境に配慮したまちづくりWGについて

1 設置目的

- ・環境に配慮した生産活動や風景の維持による環境保全と地域独自の魅力向上、その魅力に惹かれて観光客が増え地域の経済が潤う、良い循環を検討する。

2 検討事項

- ・地域の乱開発防止に向けた規制や観光をキーとした良い循環（地元内の材料、加工、販売）の仕組みづくり

【具体化に向けたリニアブラッシュアップ懇談会委員からの意見】

（総論）

- ・森林の価値や農山村の風景の価値といった、無価値にしか見えないものをいかに価値化させていくかによって、地域のイメージは大きく変わる。

（地域の乱開発防止に向けた規制）

- ・リニア開発による交通の利便性の高まりにより、乱開発される可能性があるため、乱開発防止のための規制については、なるべく早く進めた方が良い。

（観光をキーとした良い循環）

- ・観光、経済、農業等をどのように結びつけるか、この場所はこのようにするという具体的なイメージがあれば、様々な人との協働が可能になると思う。

◎委員意見を踏まえた実践策について、WGにて検討。

3 WG委員（調整中）

関係者	リニア沿線市町、リニア沿線市町関係まちづくり協議会
有識者	リニア活用戦略ブラッシュアップ懇談会委員
県	環境生活部、農政部、林政部、観光国際局

4 WGスケジュール（予定）

令和4年度 地域の乱開発防止に向けた規制や観光をキーとした良い循環の仕組みづくりの検討に向けた意見交換

令和5年度 意見交換を踏まえた課題・対策の整理